

いま考えたいこと

**腎臓病と食事制限** 慢性腎炎などの腎臓病のため透析を受けている人は全国で約29万人。全腎協によると、食事制限が必要な人は100万人ともいわれる。老廃物を尿として排せつする機能が低下するため、薬などによる治療のほか食事療法が大切とされる。



タンパク質を半分に抑えたアルファ化米「はんぶん米」。食事制限が必要な人向けの食事であることを呼び掛けるポスターも同封する=新潟県長岡市で

使用する米は、タンパク質や塩分、カリウムの摂取を抑える必要がある

一方、一定のカロリーが必要。日大では、低タンパク質の米を主食にしたり、野菜をゆでてほしてカリウムを減らしたりするなど、食事に気をつけている。

避難所で配られるカツブ類やおにぎりは、食事制限のある人には不向き。湯や水を抜きで食べられる一般的のアルファ化米は味付きが多い。

新潟県長岡市の農家らでつくる有限会社「エコ・ライス新潟」は、保存

・非常食として、腎臓病患者向けのアルファ化米「はんぶん米」を製造している。

## 中越地震後に開発 現在は製造停止中

### 低タンパク質の「はんぶん米」

腎臓病患者は、タンパク質や塩分、カリウムの摂取を抑える必要がある。一方、一定のカロリーが必要。日大では、低タンパク質の米を主食にしたり、野菜をゆでてほしてカリウムを減らしたりするなど、食事に気をつけている。

避難所で配られるカツブ類やおにぎりは、食事制限のある人には不向き。湯や水を抜きで食べられる一般的のアルファ化米は味付きが多い。

新潟県長岡市の農家らでつくる有限会社「エコ・ライス新潟」は、保存

・非常食として、腎臓病患者向けのアルファ化米「はんぶん米」を製造している。

はんぶん米を四子食分開発のきっかけは、同社も被災した中越地震。

慢性腎炎の女性社員が避難所生活で思う「やがたな食事ができず、病状が悪化」半年後、人工透析が必要になった。

「避難所でも食事制限ができないから、人工透析せずに暮らしているので、はんぶん米が必要」と書いた方

へ手紙を送ったところ、「人が消化できるタンパク質が半分で、タンパク質を減らす方がいい」と返信があった。

一方、エコ・ライス新潟の豊永有さん(35)は「腎臓病患者は、はんぶん米が必要としている」と、宮城県や岩手県の避難所に白ら届けた。

はんぶん米を確実に患者に届けるため、同社は表示に工夫を重ねるが、苦労も多い。

健康増進法で食品表示のルールが厳格化され、おもに病院用の「特別用

料メーカーが被災し、現在製造がストップ。在庫も尽きた。6月13日の再開予定だが、また販売できない被災地もある。患

者団体の全国腎臓病協議会(全腎協)は、はんぶん米を備蓄している自治体に提供を要請。一部の自治体が店舗している。

(左)は「避難生活で透析もままならず、食事制限もできないと体調が悪化やすい。腎臓病患者用の非常食は不可欠だ」と話している。

## 腎臓病患者へ非常食を

東日本大震災から四十日余。避難所への食料供給は安定しつつあるが、食事制限のある人は向かぬ食品もあり、病気を悪化させる人が出ている。そんな中、低タンパク質のアルファ化米(保存・非常用に乾燥させた加工米)が、腎臓病患者方に喜ばれ正在二〇〇四年の中越地震をきっかけで、新潟県で誕生した。

(編集委員)

途食品)の許可基準を満たしていない脊膳は、「低タンパク質米」「腎臓病患者向け」といった表示ができる。

このため、脊膳を原料にしているはんぶん米も、「タンパク質半分など」と表示できます。「カラダはやわらかい保存食」と表示するだけ。消費者庁は「病気の方向けなので、基準を厳しくせざるを得ない」と話す。

同社では、災害備蓄用にはんぶん米を自社で納入する際、要望があれば「人が消化できるタンパク質が半分で、タンパク質を減らす方がいい」と記載して販売を始めたところ。

一方、エコ・ライス新潟の豊永有さんは「透析患者」と書いた方へ手紙を送ったところ、「透析患者」と書いた方へ一緒に入れる。一般向けの食料が足りない

はんぶん米は、袋の原稿に白ら届けた。と書く、遠慮して言い出せない患者がいるからだ。

はんぶん米は、袋の原稿に白ら届けた。と書く、遠慮して言い出せない患者がいるからだ。

はんぶん米は、袋の原稿に白ら届けた。と書く、遠慮して言い出せない患者がいるからだ。